

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は 1 2 1 ~ 1 2 2 円台で方向感を探る動きか

[4 月 4 日からの 1 週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	3 月 2 8 日 ~ 4 月 1 日					
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比	
ドル・円	122.03	125.09(28)	121.28(31)	122.30	+0.25	
ユーロ・ドル	1.0990	1.1185(31)	1.0945(28)	1.1069	+0.0086	
=====						
国内株・金利 / 米国株・金利	終 値		前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	27,665.98	-483.86	日本10年債利回り	0.216	-0.022	
ダウ平均株価	34,678.35	-182.89	米10年債利回り	2.338	-0.135	

< 来週の主要経済統計等 >

- 4 日 独 2 月貿易収支
ユーロ圏 2 月生産者物価指数
米 2 月製造業受注
- 5 日 日本 2 月勤労者世帯家計調査
豪中銀 (R B A) 政策金利
独 3 月非製造業 P M I 確報値、ユーロ圏 3 月非製造業 P M I 確報値
英 3 月非製造業 P M I 確報値
米 2 月貿易収支
カナダ 2 月貿易収支
米 3 月サービス業 P M I 確報値
米 3 月 I S M 非製造業景況指数
- 6 日 独 2 月製造業受注指数
ユーロ圏 2 月小売売上高
カナダ 3 月 I v e y 購買部協会指数
米連邦公開市場委員会 (F O M C 、 3 月 1 5 ~ 1 6 日) 議事要旨
- 7 日 豪 2 月貿易収支
日本 2 月景気動向指数速報値
スイス 3 月雇用統計
独 2 月鉱工業生産指数
米新規失業保険申請件数
- 8 日 日本 2 月経常収支
カナダ 3 月雇用統計

【前回のレビュー】3 月 2 8 日の週には 4 月 1 日に 3 月の米雇用統計や I S M 製造業景況指数など、注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。米国の雇用に加えて他の経済指標でも堅調な流れが続くようなら、一段とドル高に振れる可能性が高まり、ドル円は上昇基調が継続するとした。

【ドル円は高値から調整を見せる】

3 月 1 5 ~ 1 6 日の米連邦公開市場委員会 (F O M C) での利上げ決定やその後の米連邦準備制度理事会 (F R B) 当局者から利上げに前向きな発言が相次いだことで、米長期金利の上昇やドル高につながってきた。一方で日銀は緩和的な金融政策の継続を決め、黒田日銀総裁などから円安容認発言なども出ていることで、ドル買い円売りの流れから、3 月 2 8 日にドル円は一時 1 2 5 円台まで上昇した。

F R B 当局者や F O M C メンバーは利上げに積極的な姿勢を示している。2 5 日に

ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁は「適切なら0.5%利上げすべき」と、経済状況次第ながら5月のFOMCでの大幅利上げを支持する考え方を示した。他の当局者からも同様の見解が繰り返して出されている。米国では2月の米消費者物価指数が前年比+7.9%となり、12月の前年比+7.0%、1月の+7.5%から上昇傾向が続いており、インフレ抑制のために利上げペースの加速が見込まれている。

一方で日銀は緩和姿勢を継続している。3月29日から3日間、日銀は利回り0.25%で国債を無制限に買い入れる「連続指値オペ」を実施した。長期金利の上昇を抑制して金融緩和の継続姿勢を示している。こうした日米の金融政策の差がドル買い円売りの流れにつながった。3月4日の安値114.65付近から3月28日の125.09まで実に10円以上の大幅なドル高円安に傾いた。

そうした中、29日にトルコで行われたロシアとウクライナの停戦交渉に進展があったと報じられた。ウクライナは北大西洋条約機構（NATO）に代わる新たな安全保障に枠組みを提案して、ロシア側は首都キエフ周辺などで軍事行動を大幅に縮小すると述べるなど、双方が一定の譲歩を見せた。今後の動向は不透明ながら、これまでと比べて停戦へ向けて進展が見られたことで、金融市場でも警戒感が後退しつつある。

停戦交渉が進展しているとの報道を受けて、ユーロが対ドルで買われてユーロドルが1.1000ドル近辺から1.1100ドル超まで大きく上昇、その後は伸び悩んでいくものの、1.10台で推移している。ドル円は対ユーロでのドル売りやテクニカル面での過熱感から122円台前半まで下落した後、122円台半ばまで戻している。

ウクライナでの停戦交渉が一段と進展するようならユーロドルが一段と上昇して、ドル円は上値を抑えられやすい流れとなりそうだ。ただ、ロシアに対する懐疑的な見方は根強く、停戦交渉には不透明感も漂う。米国での利上げペースの加速や日米の金融政策の違いはドル円のサポート要因ながらも、テクニカル面での過熱感も重石となりそうだ。こうした中、ドル円は中期的には一段高が期待できるものの、短期的には122~122円台を中心に向かを探る動きとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、119.00~124.00円。

4月4日の週の注目材料としては、6日に3月15~16日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨がある。バランスシート縮小に関する議論の内容などが明らかになり、タカ派的な内容の場合はドル円をサポートする要因となりそうだ。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、4日に米2月製造業受注、5日に日本2月勤労者世帯家計調査、米2月貿易収支、米3月サービス業PMI確報値、米3月ISM非製造業景況指数、6日に米連邦公開市場委員会（FOMC、3月15~16日）議事要旨、7日に日本2月景気動向指数速報値、米新規失業保険申請件数、8日に日本2月経常収支などがある。

【ユーロドルはもみ合いで推移か】

3月29日にロシアとウクライナの停戦交渉に進展が見られたとの報道を受けて、ユーロは対ドルで上昇に転じた。30日にはホルツマン・オーストリア中銀総裁が「資産購入が終了していれば、フォワードガイダンスに従って9月と12月に利上げすることが可能」と発言したことや独3月消費者物価指数が予想から上振れしたことなどがユーロドルの支援材料となった。

ユーロ圏では高いインフレ率が続いており、欧州中央銀行（ECB）は年内に利上げに動くとの見方も広がっている。ただ、ロシアとウクライナの停戦交渉は不透明感も根強く、一段の事態の進展がないと、ユーロドルは上値を追う動きとはなりにくいとみられる。こうした中、ユーロドル1.1000~1.1100ドル台を中心とするもみ合いで推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0900~1.1250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、4日に独2月貿易収支、ユーロ圏2月生産者物価指数、5日に豪中銀（RBA）政策金利、独3月非製造業PMI確報値、ユーロ圏3月非製造業PMI確報値、英3月非製造業PMI確報値、米2月貿易収支、カナダ

2月貿易収支、6日に独2月製造業受注指数、ユーロ圏2月小売売上高、カナダ3月I
V E Y購買部協会指数、7日に豪2月貿易収支、スイス3月雇用統計、独2月鉱工業生
産指数、8日にカナダ3月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。